

NEC Expressワークステーション
Express5800シリーズ

Express5800/51Eb, Y51Eb インストールガイド(Windows編)

1章 Windowsのインストール

2章 バンドルソフトウェアのインストール

本製品のドキュメント

本製品のドキュメントは、次のように、冊子として添付されているもの(📖)、EXPRESSBUILDER 内(📍)に電子マニュアル(📄)として格納されているものがあります。



スタートアップガイド

本機の開梱から運用までを順を追って説明しています。はじめにこのガイドを参照して、本機の概要を把握してください。



EXPRESSBUILDER



ユーザーズガイド

使用上のご注意

本機を安全に使うための情報について説明しています。**本機を取り扱う前に、必ずお読みください。**

1章 概要

本機の概要、各部の名称、および機能について説明しています。

2章 準備

オプションの増設、周辺機器との接続、および適切な設置場所について説明しています。

3章 セットアップ

システム BIOS の設定と EXPRESSBUILDER の概要について説明しています。

4章 付録

本機の仕様などを記載しています。



インストレーションガイド (Windows 編)

1章 Windows のインストール

Windows、ドライバのインストール、およびインストール時に知っていただきたいことについて説明しています。

2章 バンドルソフトウェアのインストール

ESMPRO など、標準添付されているソフトウェアのインストールについて説明しています。



メンテナンスガイド

1章 保守

本機の保守とトラブルシューティングについて説明しています。

2章 便利な機能

便利な機能の紹介、システム BIOS および EXPRESSBUILDER の詳細について説明しています。

3章 付録

エラーメッセージ、Windows イベントログ一覧などを記載しています。



その他のドキュメント

ESMPRO の操作方法など、詳細な情報を提供しています。

目次

本製品のドキュメント	2
目次	3
本書で使う表記	5
本文中の記号	5
「光ディスクドライブ」の表記	5
「リムーバブルメディア」の表記	5
オペレーティングシステムの表記	6
商標	7
本書についての注意、補足	8
最新版	8
1 章 Windows のインストール	9
1. セットアップを始める前に	10
1.1 EXPRESSBUILDER について	10
1.2 インストール可能な Windows OS	10
1.3 サービスパックの対応	10
1.4 EXPRESSBUILDER がサポートしている大容量記憶装置コントローラ	11
1.5 EXPRESSBUILDER がサポートしていない大容量記憶装置コントローラを利用した セットアップ	11
2. オペレーティングシステムのセットアップ	12
3. Windows 8 のセットアップ	13
3.1 セットアップの前の確認事項	13
3.2 プリインストールモデルのセットアップ	20
3.2.1 セットアップをはじめる前に(購入時の状態)	20
3.2.2 セットアップの手順	21
3.3 OS 標準のインストーラを使ったセットアップ	25
3.3.1 セットアップの流れ	25
3.3.2 セットアップに必要なもの	25
3.3.3 セットアップの手順	26
3.4 Starter Pack の適用	34
3.5 デバイスドライバのセットアップ	37
3.5.1 LAN ドライバ	37
3.5.2 AMT ドライバのインストール	38
3.5.3 グラフィックスアクセラレータドライバ	41
3.5.4 サウンドドライバ	42
3.6 各種バンドルソフトウェアのインストール	44
3.7 ライセンス認証の手続き	44
3.8 サービスパックの適用	45
3.9 論理ドライブが複数存在するときのセットアップ	46
4. 障害処理のためのセットアップ	48
4.1 メモリダンプ(デバッグ情報)の設定	48
4.1.1 Windows 8	48
4.2 ユーザーモードプロセスダンプの取得方法	55
4.2.1 Windows 8 の場合	55
4.3 リカバリーメディアの作成	56

2章 バンドルソフトウェアのインストール.....	57
1. 本機用バンドルソフトウェア	58
1.1 ESMPRO/ServerAgent (Windows 版).....	58
1.2 ExpressUpdate Agent	58
1.3 エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS).....	58
2. 管理 PC 用バンドルソフトウェア	59
2.1 ESMPRO/ServerManager.....	59
2.2 エクスプレス通報サービス(MG).....	59
索引	60

本書で使う表記

本文中の記号

本書では安全にかかわる注意記号のほかに 3 種類の記号を使用しています。これらの記号は、次のような意味があります。

	<p>ハードウェアの取り扱い、ソフトウェアの操作などにおいて、守らなければならないことについて示しています。記載の手順に従わないときは、ハードウェアの故障、データの損失など、重大な不具合が起きるおそれがあります。</p>
	<p>ハードウェアの取り扱い、ソフトウェアの操作などにおいて、確認しておかなければならないことについて示しています。</p>
	<p>知っておくと役に立つ情報、便利なことについて示しています。</p>

「光ディスクドライブ」の表記

本機は、購入時のオーダーによって以下のいずれかのドライブを装備できます。本書では、これらのドライブを「光ディスクドライブ」と記載しています。

- DVD-ROM ドライブ
- DVD Super MULTI ドライブ
- Blu-ray ディスクドライブ

「リムーバブルメディア」の表記

本書で記載のリムーバブルメディアとは、特に記載のない限り以下を意味します。

- USB メモリ

オペレーティングシステムの表記

本書では、Windows オペレーティングシステムを次のように表記します。

本機でサポートしている OS の詳細は、「1 章(1.2 インストール可能な Windows OS)」を参照してください。

本書の表記	Windows OSの名称
Windows 8 ※	Windows 8 Pro

※ 本書では、特に記載がない限りWindows 8は64ビット版を示します。

商 標

EXPRESSBUILDERとESMPROは日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、MS-DOSは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、XEON、Pentiumは米国Intel Corporationの登録商標です。

ATI、ATI logo、FireProはAdvanced Micro Devices, Inc.の商標です。

Adaptecとそのロゴは米国Adaptec, Inc.の登録商標です。SCSISelectは米国Adaptec, Inc.の商標です。

LSI、LSIロゴのデザインは、米国LSI Corporationの登録商標または商標です。

Adobe、Adobeロゴ、Acrobatは、Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の登録商標または商標です。

LinuxはLinus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

NVIDIA、NVIDIAロゴ、Quadroは、NVIDIA Corporation社の商標または登録商標です。

Symantec Norton Ghost

(c) 1999 Symantec Corporation. All Rights Reserved.

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

本書についての注意、補足

1. 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
2. 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
3. 弊社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
4. 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
5. 運用した結果の影響については、4項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
6. 本書の説明で用いられているサンプル値は、すべて架空のものであります。

この説明書は、必要なときすぐに参照できるよう、お手元に置いておくようになっています。

最新版

本書は作成日時点の情報をもとに作られており、画面イメージ、メッセージ、または手順などが**実際のもの**と異なる場合があります。変更されているときは適宜読み替えてください。

また、ユーザーズガイドをはじめとするドキュメントは、次の Web サイトから最新版をダウンロードできます。

<http://www.nec.co.jp/>

Windows のインストール

セットアップの手順を説明します。ここで説明する内容をよく読み、正しくセットアップしてください。

1. セットアップを始める前に

Windows 8 使用時の注意事項について説明しています。また、本製品に添付の EXPRESSBUILDER がサポートしているサービスパックやオプションボードについて説明しています。

2. オペレーティングシステムのセットアップ

セットアップの大まかな流れについて説明しています。

3. Windows 8 のセットアップ

Windows 8 のセットアップについて説明しています。

4. 障害処理のためのセットアップ

問題が起きたとき、より早く、確実に復旧できるようにするためのセットアップについて説明しています。

1. セットアップを始める前に

本製品に添付の「EXPRESSBUILDER」がサポートしているサービスパックの組み合わせや、Windows オペレーティングシステムをセットアップするときの確認事項について説明します。

1.1 EXPRESSBUILDER について

再インストール時は、添付の EXPRESSBUILDER を使います。標準添付のメディア(EXPRESSBUILDER と記載があるもの)を用意してください。

プリインストールからセットアップするとき、EXPRESSBUILDER は使いません。

1.2 インストール可能な Windows OS

添付の EXPRESSBUILDER では、以下の Windows OS(エディション)をサポートしています。サービスパックについては、次の項を参照してください。

Windows OS の名称		サポート
Windows 8	Windows 8 Pro (64 ビット版)	○
	Windows 8 Pro (32 ビット版)	—

- : サポート対象
— : サポート対象外

1.3 サービスパックの対応

添付の EXPRESSBUILDER では、以下の OS インストールメディアおよびサービスパックの組み合わせをサポートしています。

サービスパック	Windows 8 Pro (64 ビット版)
Service Pack 無し	○

サービスパック	Windows 8 Pro (32 ビット版)
Service Pack 無し	—

- … サポート対象
— … サポート対象外



チェック

ここに記載のないサービスパックについては、下記サイトより詳細情報をご確認ください。

[ワークステーションサポート情報]

<http://support.express.nec.co.jp/workstation/>

1.4 EXPRESSBUILDER がサポートしている大容量記憶装置コントローラ

オプションボードを接続するときは、ボードに添付の説明書と本書の「1章(1.5 EXPRESSBUILDER がサポートしていない大容量記憶装置コントローラを利用したセットアップ)」を参照してください。

1.5 EXPRESSBUILDER がサポートしていない大容量記憶装置コントローラを利用したセットアップ

最新の RAID コントローラなど、EXPRESSBUILDER がサポートしていない大容量記憶装置コントローラ上へ OS をインストールするときは、次の手順にしたがってください。

通常は、本手順を実施する必要はありません。

1. セットアップする大容量記憶装置コントローラの説明書を準備します。



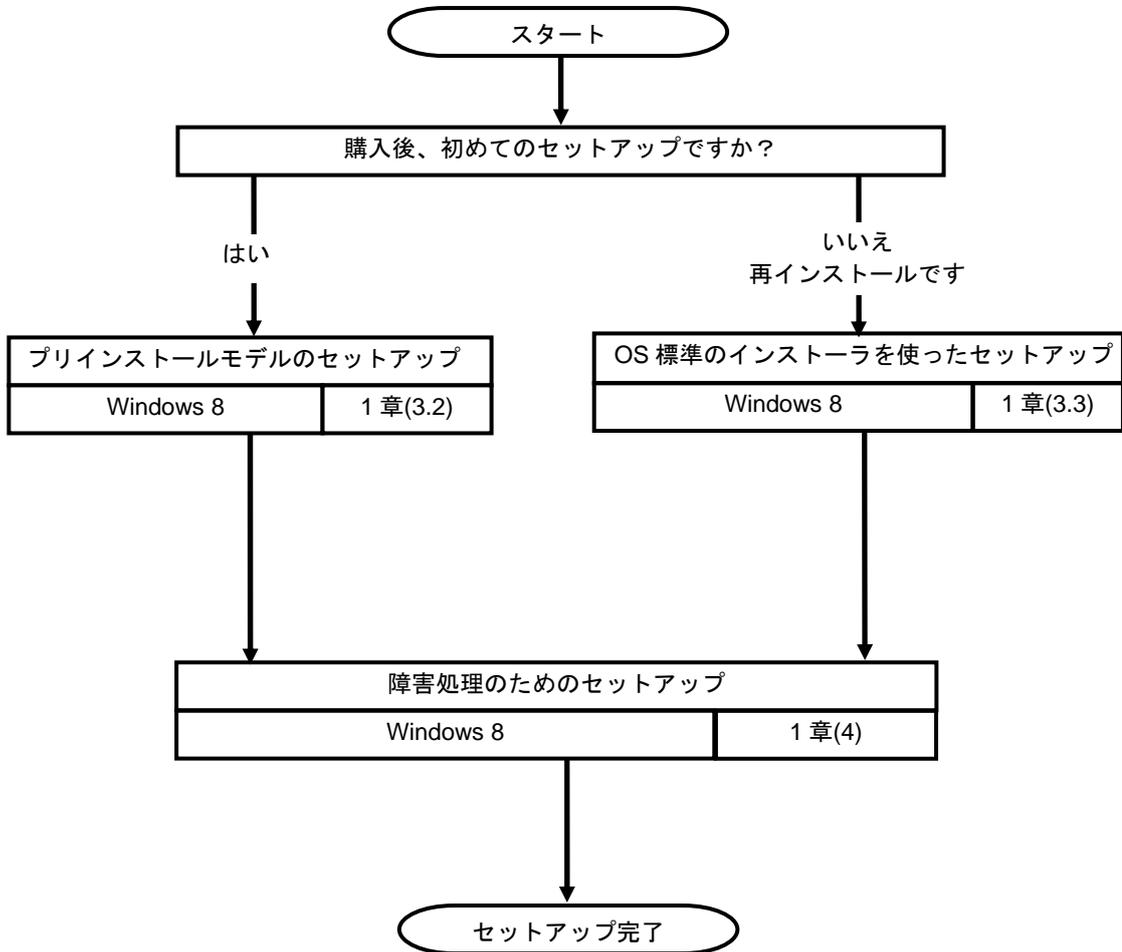
チェック

本書の内容と大容量記憶装置コントローラの説明書との内容が異なる場合は、大容量記憶装置コントローラの説明書を優先してください。

2. RAID コントローラを使用するときは、コントローラの説明書にしたがって RAID システムを構築します。
3. 本書の「1章(3.3 OS 標準のインストーラを使ったセットアップ)」を参照しセットアップを行います。

2. オペレーティングシステムのセットアップ

次の図を参考に、本書を参照してセットアップしてください。



3. Windows 8 のセットアップ

Windows 8 のセットアップをします。

3.1 セットアップの前の確認事項

セットアップを始める前に、ここで説明する注意事項について確認しておいてください。

BTO … プリインストールモデルのセットアップ

OS … OS 標準のインストーラを使ったセットアップ

		確認事項	
BTO	OS	インストール可能な Windows ファミリ	<p>Windows ファミリのうち、インストール可能なエディションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Windows 8 Pro (64ビット版) <p>その他のエディションをインストールするときは、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。サービスパックについては本書の「1章(1.3 サービスパックの対応)」を参照してください。</p>
—	OS	BIOS の設定	<ul style="list-style-type: none"> ● 本機は、UEFI 環境へのインストールのみをサポートしています。Legacy BIOS 環境へのインストールはサポートしていません。 ● 再セットアップするときは、BIOS 設定メニューの [Boot Priorities] で光ディスクドライブが [Windows Boot Manager] より上位に設定されていることを確認してください。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【正しい設定例】</p> <p>[Boot] - [Boot Priorities]</p> <ul style="list-style-type: none"> - Boot Option #1 [光ディスクドライブ] - Boot Option #2 [Windows Boot Manager] <p>→ OS インストールメディアから起動できます。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【誤った設定例】</p> <p>[Boot] - [Boot Priorities]</p> <ul style="list-style-type: none"> - Boot Option #1 [Windows Boot Manager] - Boot Option #2 [光ディスクドライブ] <p>→ OS インストールメディアから起動できません。</p> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p> チェック</p> <ul style="list-style-type: none"> ● BIOS 設定メニューの表示前に OS インストールメディアを光ディスクドライブへセットしてから実施してください。 ● [Boot Priorities] に [Windows Boot Manager] が表示されていないときは、確認の必要はありません。 </div>

			<ul style="list-style-type: none"> ● 本製品では、OSによって変更が必要なBIOSパラメータ値(たとえば、プラグアンドブレイのサポート有無に関する設定など)はありません。 その他、ハードウェアに関する設定については、Windows OSをインストールする前に、ユーザズガイドの「3章(2. システムBIOSのセットアップ(SETUPの説明))」を参照してください。 ● オプションのグラフィックスアクセラレータボードを接続している場合は、OSをインストールする前に以下のBIOS設定メニューが[Disabled]になっていることを確認してください。 [Advanced] - [PCI Configuration] - [PCI Device Controller and Option ROM Settings] - [Video Controller] - [Multi Video Controller] ※デフォルト設定は「Disabled」になっています。 ● ハードディスクドライブを交換したときはBIOS設定メニューで 以下の(1)と(2)のHDD型番(下線部)が一致していることを確認してください。 (1) [Advanced] - [SATA Configuration] - [SATA Information] - [SATA Port0] - <u>xxxxxxxxxxxxxx</u> (xxxxGB) (2) [Boot] - [Hard Drive BBS Priorities] - [Boot Option #1] - [SATA PM: <u>xxxxxxxxxxxxxx</u>]
<p>— OS</p> <p>— OS</p> <p>— OS</p> <p>— OS</p> <p>— OS</p>	<p>注意すべきハードウェア構成</p>	<p>次のようなハードウェア構成においては特殊な手順が必要となります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ミラー化されているボリュームへのインストール いったんミラーボリュームを無効にしてベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。 ミラーボリュームの作成、解除、および削除は、[ディスクの管理]を使います。 ● RDX/MOなどの周辺機器 インストール時、RDX/MO装置は取り外してください。その他、周辺機器によっては休止状態にする必要があります。それぞれの周辺機器の説明書を参照し、適切な状態にしてからセットアップしてください。 ● DATやLTO等のメディア インストール時、DATやLTO等のメディアはセットしないでください。 ● 複数台のハードディスクドライブ(論理ドライブ)の接続 複数ハードディスクドライブ(論理ドライブ)が存在するシステムへのセットアップについては、本書の「1章(3.9 論理ドライブが複数存在するときのセットアップ)」を参照してください。 ● ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブへの再インストール ダイナミックディスクへアップグレードしたとき、既存のパーティションを残したままでの再インストールはできません。 この場合、OS標準のインストーラを使ったセットアップを行ってください。

08

● 大容量メモリ搭載時のセットアップ

大容量のメモリを搭載するとインストールのときに必要なページングファイルサイズが大きくなり、デバッグ情報(ダンプファイル)採取のためのパーティションサイズが確保できないことがあります。

ダンプファイルサイズを確保できないときは、新規インストールを実施し、次のようにデバッグ情報を書き込む場所を別のハードディスクドライブに割り当てることで解決できます。

1. 「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」を設定する。
2. 本書の「1章 4. 障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のハードディスクドライブに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがハードディスクドライブにないときは「インストールに必要なサイズ+ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいハードディスクドライブを増設してください。



チェック

Windows をインストールするパーティションのサイズが「インストールに必要なサイズ+ページングファイルサイズ」より小さいときは、パーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。

ページングファイルサイズを確保できないときは、新規インストール後に、以下のいずれかの設定を行って下さい。

— メモリダンプの採取に使用するページングファイルをシステムドライブ以外のドライブに設定する

システムドライブ以外のドライブに搭載メモリサイズ+400MB 以上のページングファイルを作成します。

ドライブ文字 C、D、E … の順に、ドライブに最初に存在したページングファイルがメモリダンプを採取するための一時的な保存先として使用されます。そのため、最初に存在するページングファイルのサイズは、搭載メモリサイズ+400MB 以上となっている必要があります。ダイナミックボリュームのページングファイルはメモリダンプ採取に使用されません。設定の反映には再起動が必要です。

【正しい設定例】

C : ページングファイルなし

D : 搭載メモリサイズ+400MB 以上のページングファイル

→ D ドライブのページングファイルが搭載メモリサイズ+400MB 以上であるため、D ドライブのページングファイルを使用してメモリダンプを採取できます。

【 誤った設定例 1 】

- C : 搭載メモリサイズ未満のページングファイル
 D : 搭載メモリサイズ+400MB 以上のページングファイル

→ C ドライブのページングファイルがメモリダンプ採取に使用されますが、ページングファイルサイズが搭載メモリサイズ未満のためメモリダンプを採取できない場合があります。

【 誤った設定例 2 】

- C : 搭載メモリサイズ×0.5 のページングファイル
 D : 搭載メモリサイズ×0.5 のページングファイル
 E : 400MB のページングファイル

→ 全ドライブのページングファイルの合計は搭載メモリサイズ+400MB ですが、C ドライブのページングファイルのみメモリダンプ採取に使用されるため、メモリダンプを採取できない場合があります。

【 誤った設定例 3 】

- C : ページングファイルなし
 D : 搭載メモリサイズ+400MB 以上のページングファイル
 (ダイナミックボリューム)

→ D ドライブはダイナミックボリュームのため、D ドライブのページングファイルはダンプ採取に使用されず、メモリダンプを採取できません。

ー システムドライブ以外のドライブに Dedicated Dump File を設定する

レジストリエディタにて以下のレジストリを作成し、Dedicated Dump File のファイル名を設定します。

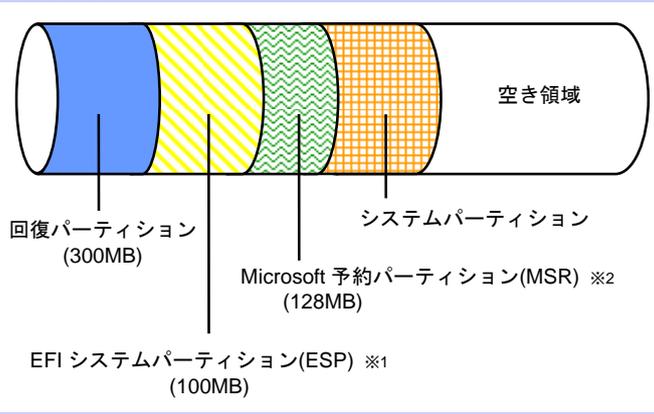
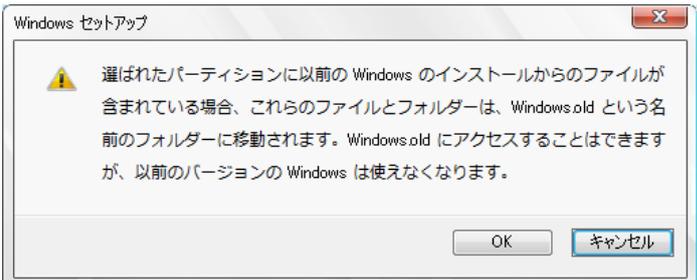
<D ドライブに「dedicateddumpfile.sys」というファイル名を設定する場合>

キー	: HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM ¥CurrentControlSet¥Control¥CrashControl
名前	: DedicatedDumpFile
種類	: REG_SZ
データ	: D:¥dedicateddumpfile.sys

Dedicated Dump File については、以下について注意のうえ設定してください。

- レジストリの編集には十分にご注意ください。
- 設定の反映には再起動が必要です。
- 搭載メモリサイズ +400MB 以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- ダイナミックボリュームに Dedicated Dump File を設定できません。
- Dedicated Dump File を使用してメモリダンプを採取するには、いずれかのドライブにページングファイルが必要です。
- Dedicated Dump File はメモリダンプの採取のみに使用され、仮想メモリとして使用されません。システム全体で十分な仮想メモリを確保できるようページングファイルを設定してください。

—	<p>08</p> <p>システムパーティションのサイズ (64ビット版の場合)</p>	<p>Windowsをインストールするパーティションサイズは、次の計算式から求めることができます。</p> <p>インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ + ハイバネーション用サイズ + アプリケーションサイズ</p> <p>インストールに必要なサイズ = 8,700MB ページングファイルサイズ(推奨) = 搭載メモリサイズ × 1.5 ダンプファイルサイズ = 搭載メモリサイズ + 400MB ハイバネーション用サイズ = 搭載メモリサイズ × 1.5 アプリケーションサイズ = 任意</p> <p>例えば、搭載メモリサイズが2GB(2,048MB)のとき、パーティションサイズは、前述の計算方法から</p> $8,700\text{MB} + (2,048\text{MB} \times 1.5) + 2,048\text{MB} + 400\text{MB} + (2,048\text{MB} \times 1.5) + \text{アプリケーションサイズ} = 17,292\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ}$ <p>となります。</p> <p>上記の計算方法から算出したサイズは、Windowsのインストールに必要な最小限のサイズです。安定した運用のため、パーティションは余裕を持たせてインストールしてください。</p> <p>20,480MB(20GB)以上のパーティションサイズを確保することを推奨します。</p> <p>※1GB = 1,024MB</p> <div data-bbox="555 1196 1347 1637" style="border: 1px solid green; background-color: #e0ffe0; padding: 5px;"> <p> チェック</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。Windows パーティションには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できないときがあるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。 搭載メモリサイズやデバッグ情報の書き込み(メモリダンプ種別)に関係なく、ダンプファイルサイズの最大は「搭載メモリサイズ + 400MB」です。 その他アプリケーションなどをインストールするときは、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。 </div> <p>Windowsをインストールするパーティションのサイズが推奨サイズより小さい場合は、パーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。</p>
---	---	---

			<p> 新規にパーティションを作成するとき、Windows OS がハードディスクドライブの先頭に次の3つのパーティションを作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 回復パーティション : 300MB - EFI システムパーティション(ESP) : 100MB - Microsoft 予約パーティション(MSR) : 128MB <p>指定したパーティションサイズのうち 528MB が先頭の3つのパーティションに割り当てられます。</p> <p>例えば、パーティションサイズを 61,440MB(60GB)と指定したとき、使用可能な領域は</p> $61,440\text{MB} - (300\text{MB} + 100\text{MB} + 128\text{MB}) = 60,912\text{MB}$ <p>となります。</p>  <p>※1 ハードディスクドライブの種類によって 260MB で作成されることがあります。</p> <p>※2 [ディスクの管理]には表示されません。</p>
<p>—</p>	<p>OS</p>	<p>パーティションの 流用</p>	<p>Windows 8 以外で作成したパーティションへWindows 8 をインストールする場合、以下のメッセージが表示されます。</p> <p>このようなパーティションは流用できませんので新規に作成してください。</p> 
<p>BTO</p>	<p>OS</p>	<p>サービスパックの 適用</p>	<p>本製品でサポートしているサービスパック以降のサービスパックを使用するときは、下記サイトより詳細情報を確かめた上で適用してください。</p> <p>[ワークステーション サポート情報]</p> <p>http://support.express.nec.co.jp/workstation/</p>
<p>BTO</p>	<p>OS</p>	<p>Windows 8 Hyper-V のサポート</p>	<p>Windows 8 Hyper-Vのサポートに関する詳細情報は、下記を参照してください。</p> <p>http://support.express.nec.co.jp/os/win8/hyper-v.html</p>

—	OS	BitLocker の利用	<p>BitLocker をご利用になる場合、下記の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none">● 回復パスワードは、BitLocker を使用するサーバ以外の安全な場所に、必ず保存／保管してください。 <p> 重要 回復パスワードがない場合、OS を起動させることができなくなり、BitLocker で暗号化したパーティションの内容を 2 度と参照できなくなります。</p> <p>回復パスワードは、次の作業実施後の OS 起動時に必要となる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none">- マザーボードを交換した- TPM を初期化した- BIOS の設定を変更した <ul style="list-style-type: none">● BitLocker で暗号化したパーティションにOS を再インストールする場合、あらかじめBitLocker で暗号化したパーティションを削除してください。
---	----	---------------	--

3.2 プリインストールモデルのセットアップ

「BTO(工場組込み出荷)」で「プリインストール」を指定した場合、パーティションの設定、オペレーティングシステム、およびバンドルソフトウェアがすべてインストールされています。

ここでは、プリインストールモデルの製品で、初めて電源を ON にするときのセットアップについて説明します。再セットアップをするときは、「OS 標準のインストーラ」を使ってください。

プリインストールモデルは、**Windows 8 Pro(64 ビット版) のみ**です。



チェック

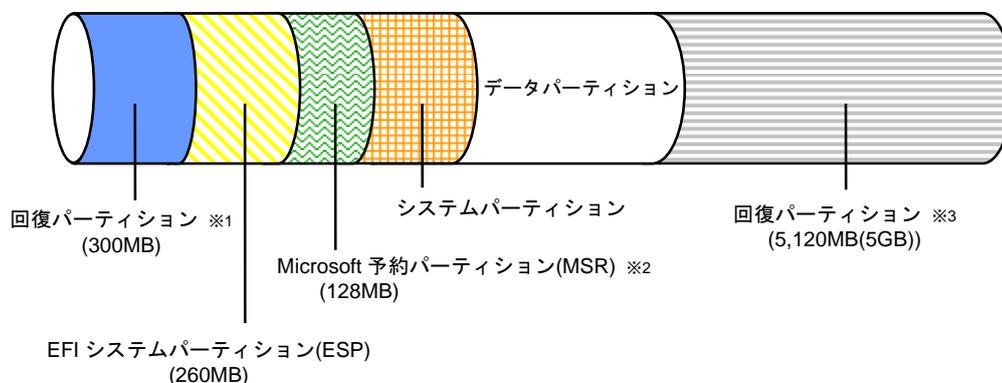
プリインストールモデルは、Scalable Networking Pack(SNP)機能が「無効」に設定されています。SNP 機能を有効にするときは、下記サイトを確認した上で設定してください。

<http://support.express.nec.co.jp/care/techinfo/snp.html>

3.2.1 セットアップをはじめる前に(購入時の状態)

セットアップを始める前に次の点について確認してください。

本機のハードウェア構成(ハードディスクドライブのパーティションサイズも含む)やハードディスクドライブにインストールされているソフトウェアの構成は、購入前のお客様によるオーダー(BTO)によって異なります。下図は、ハードディスクドライブのパーティション構成について図解しています。



※1 修復用のシステムを格納した領域

※2 [ディスクの管理]には表示されません。

※3 復元イメージを格納した領域

3.2.2 セットアップの手順

次の手順でセットアップします。



セットアップを完了するまでは、キーボード、マウス、ディスプレイ以外のデバイスを接続しないでください。

1. リムーバブルメディア、および光ディスクドライブにディスクがセットされていないことを確認します。
2. 本機の電源を ON にします。
3. ライセンス条項の内容を確認します。

同意する場合は、[Windows を使うためのライセンス条項に同意します]をチェックし[同意する]をクリックします。



4. パーソナル設定を行い、[次へ] をクリックします。



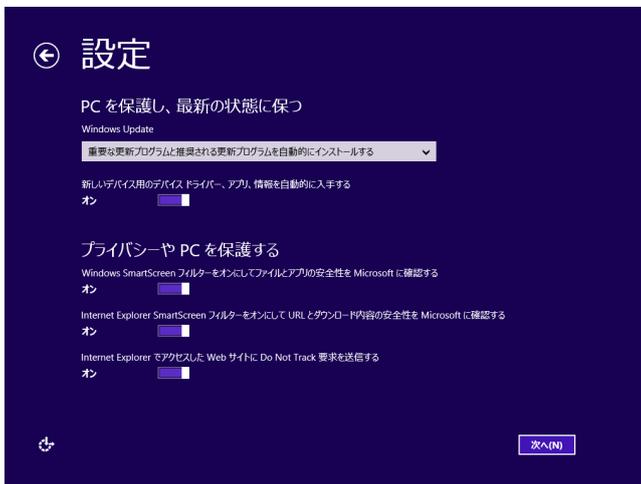
5. 設定内容を確認します。

ここでは、[簡単設定を使う] をクリックします。

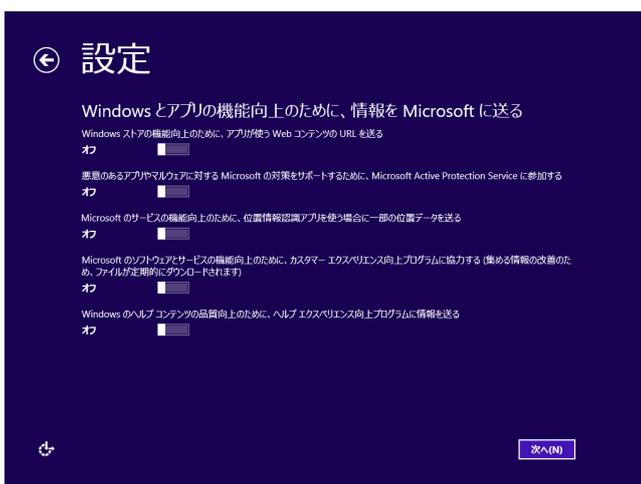


【 [簡単設定] 画面】

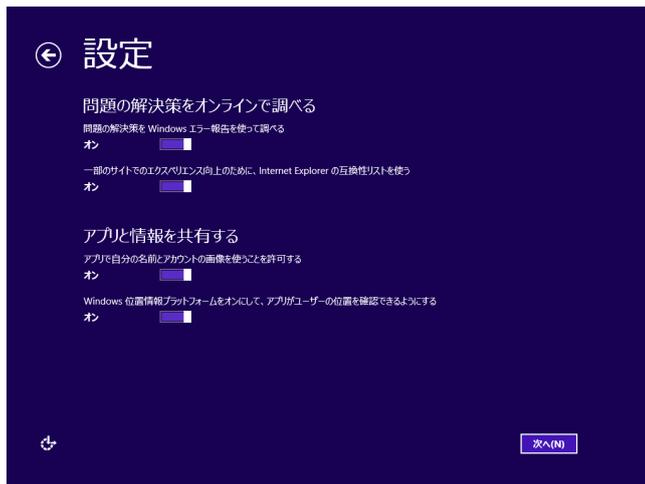
[自分で設定する] のときは、画面の項目を確認し設定してください。



【 [自分で設定する] 画面 (1/3)】

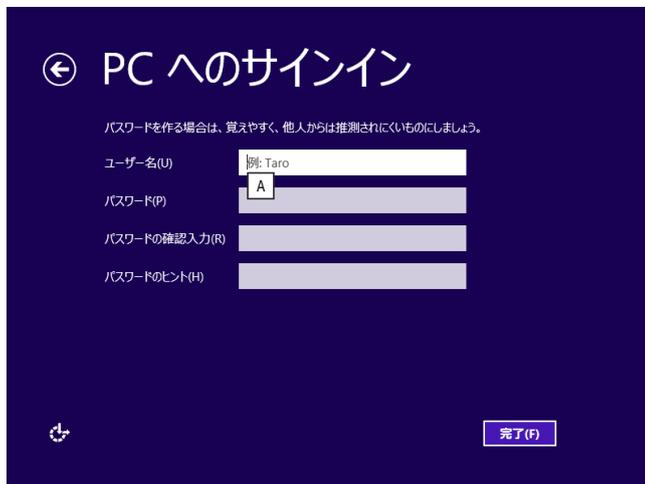


【 [自分で設定する] 画面 (2/3)】

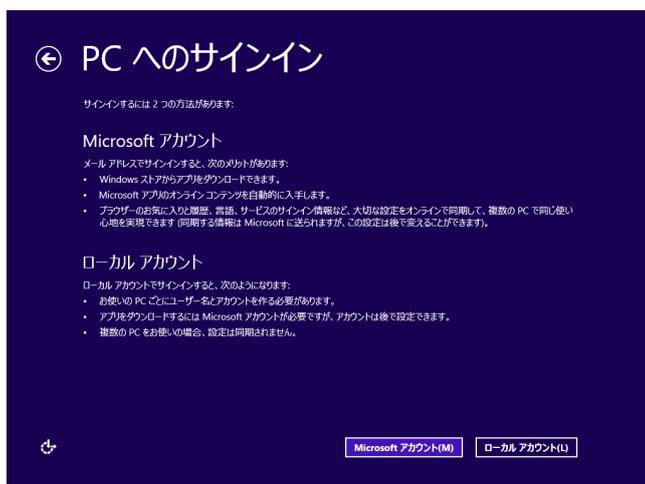


【 [自分で設定する] 画面 (3/3)】

6. ユーザー名とパスワードを入力し [完了] をクリックします。

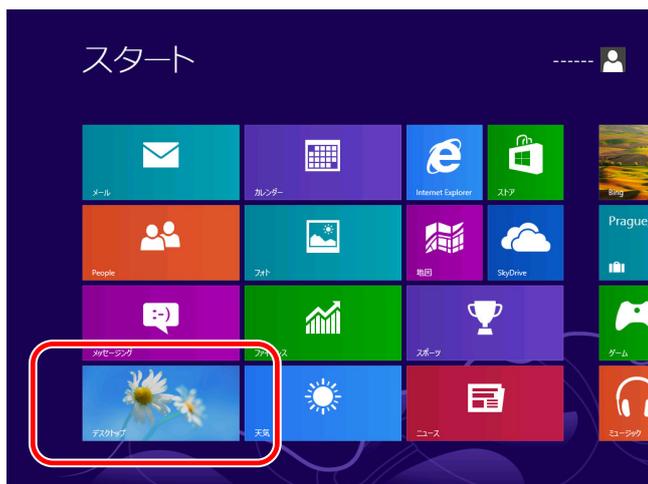


ネットワークに接続しているときは、次の画面が表示されます。
内容を確認し、設定してください。



Windows 8 が起動します。

7. スタート画面にある [デスクトップ] をクリックします。



デスクトップ画面が表示されます。



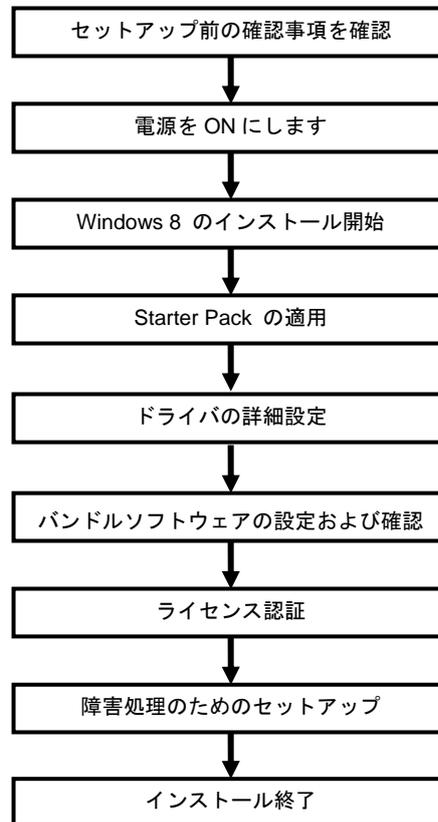
8. 本書の「1章(3.5 デバイスドライバのセットアップ)」を参照し、ドライバのインストールや詳細設定をします。
9. 必要に応じ、オプションに添付の説明書を参照してオプションのドライバをインストールします。
10. バンドルソフトウェアの設定およびその確認をします。
出荷時、次のようなソフトウェアがインストールされていることがあります。
- ESM/PRO/ServerAgent
 - エクスプレス通報サービス※
 - エクスプレス通報サービス(HTTPS) ※
- ※ : ご使用になる環境に合わせて設定または確認をしなければならないソフトウェアです。
本書の「2章 バンドルソフトウェアのインストール」を参照し、使用環境に合った状態に設定してください。
11. 本書の「1章(3.7 ライセンス認証の手続き)」を参照し、ライセンス認証済みかを確認します。
12. 本書の「1章(4. 障害処理のためのセットアップ)」を参照し、障害処理のためのセットアップをします。

以上で、プリインストールからのセットアップは終了です。

3.3 OS 標準のインストーラを使ったセットアップ

ここでは、OS 標準のインストーラを使ったセットアップについて説明します。

3.3.1 セットアップの流れ



3.3.2 セットアップに必要なもの

作業を始める前に、セットアップで必要なものを用意します。

- 次のいずれかの OS インストールメディア
 - 弊社製 OS インストールメディア (以降、「バックアップ DVD-ROM」と呼ぶ)
 - Microsoft 社製 OS インストールメディア (以降、「Windows 8 DVD-ROM」と呼ぶ)

- 「EXPRESSBUILDER」DVD

3.3.3 セットアップの手順

OS 標準のインストーラを使って Windows 8 をセットアップする手順は次のとおりです。

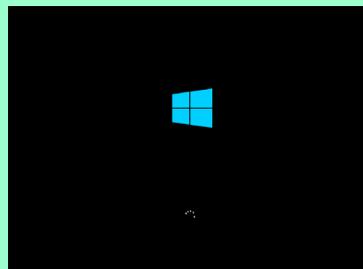


セットアップの前に、本書の「1章(3.1 セットアップの前の確認事項)」を確認してください。

1. ディスプレイ、本機の順に電源を ON にします。
2. Windows 8 DVD-ROM を光ディスクドライブにセットします。
3. 本機を再起動します。
<Ctrl> + <Alt> + キーを押すか電源を OFF/ON して、再起動してください。
4. OS インストールメディアから起動します。
画面の上部左側に「Press any key to boot from CD or DVD...」が表示されます。
メディアからブートさせるため、<Enter> キーを押してください。



下記の画面が表示されなかった場合は、<Enter> キーが正しく押されていません。
電源を ON しておしてから始めてください。

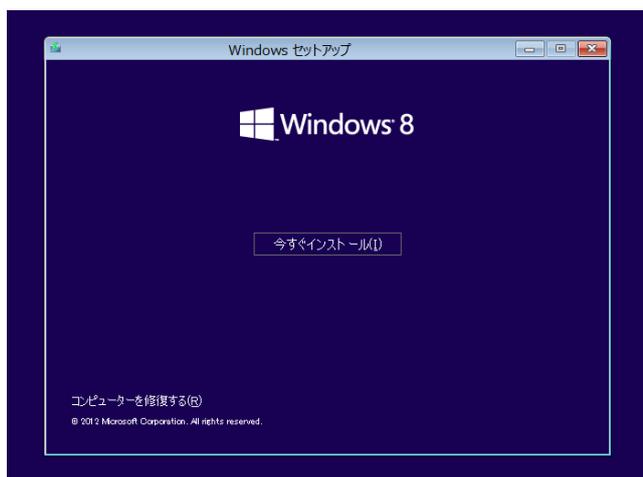


5. 言語とその他の項目を選択し [次へ] をクリックします。
ここでは[日本語(日本)]を選択してください。

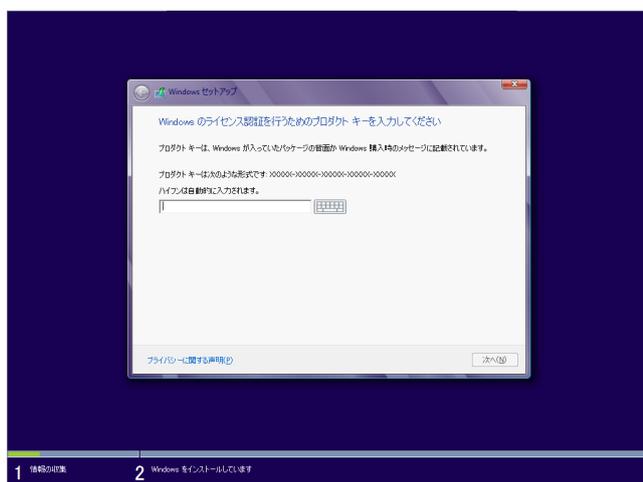


6. [今すぐインストール] をクリックします。

Windows のセットアップを開始します。

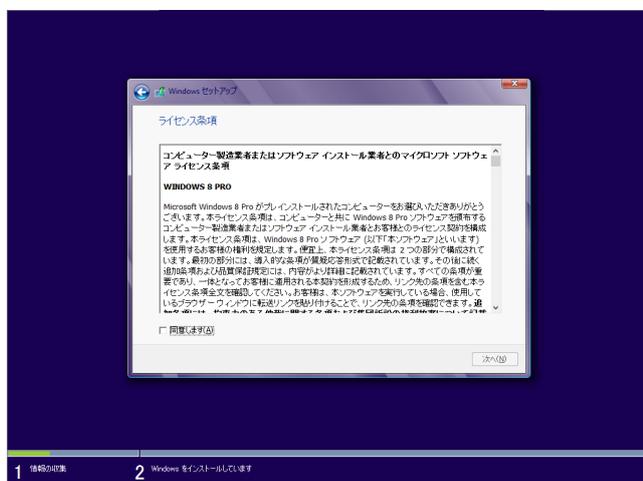


7. プロダクトキーの入力画面が表示されたら、プロダクトキーを入力し [次へ] をクリックします。



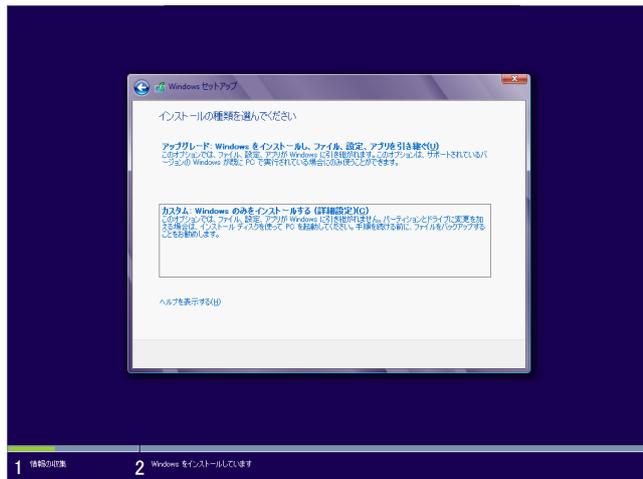
8. ライセンス条項の内容を確認します。

同意する場合は [同意します] をチェックし、[次へ] をクリックします。

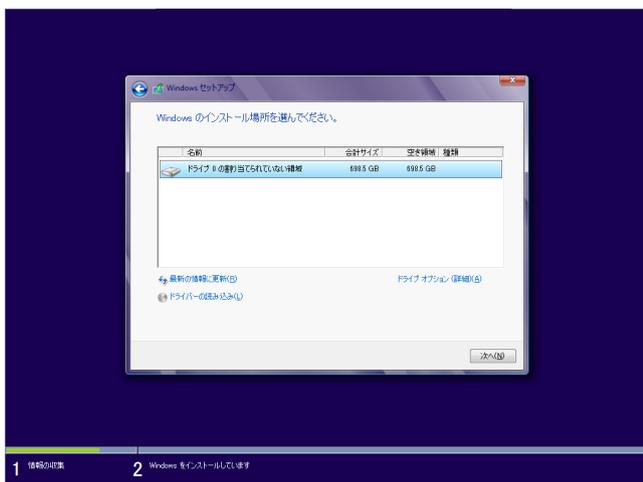


9. インストールの種類を選択します。

ここでは、[カスタム : Windows のみをインストールする(詳細設定)] をクリックします。

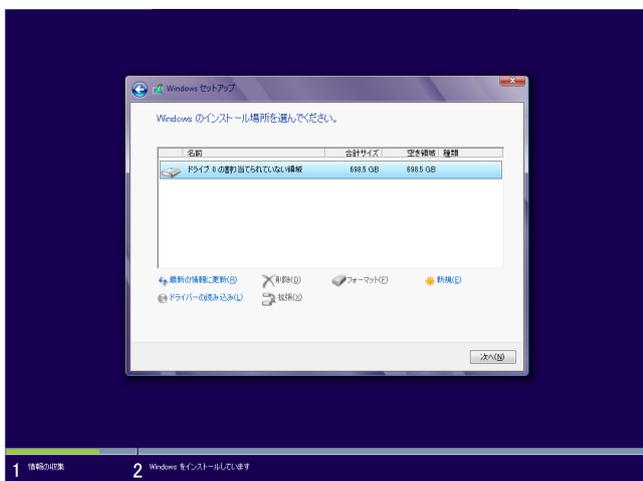


10. パーティションを作成するディスクを選択し[ドライブオプション(詳細)]をクリックします。パーティションが作成済みの場合は、手順 13 へ進んでください。



11. [新規]をクリックします。

サイズ入力ボックスにパーティションのサイズを入力し、[適用]をクリックします。

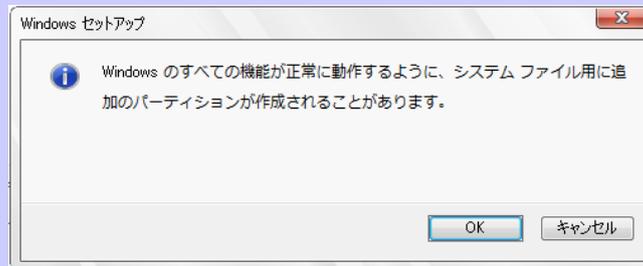




新規でパーティションを作成する場合、ハードディスクの先頭に次の3つのパーティションが作成されます。

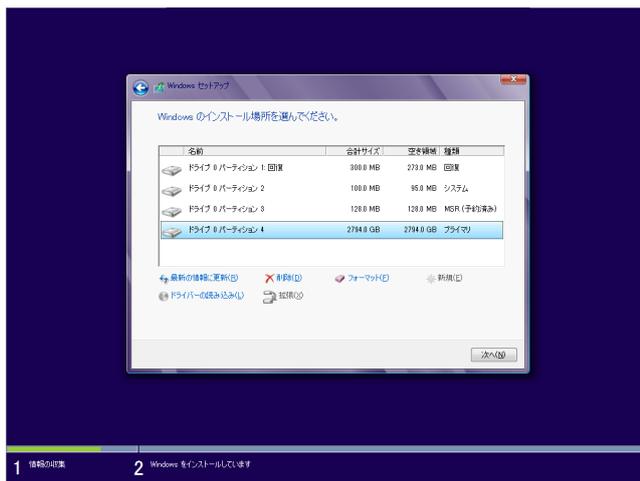
- 回復パーティション
- EFI システムパーティション(ESP)
- Microsoft 予約パーティション(MSR)

以下の画面が表示されたら、[OK]をクリックしてください。



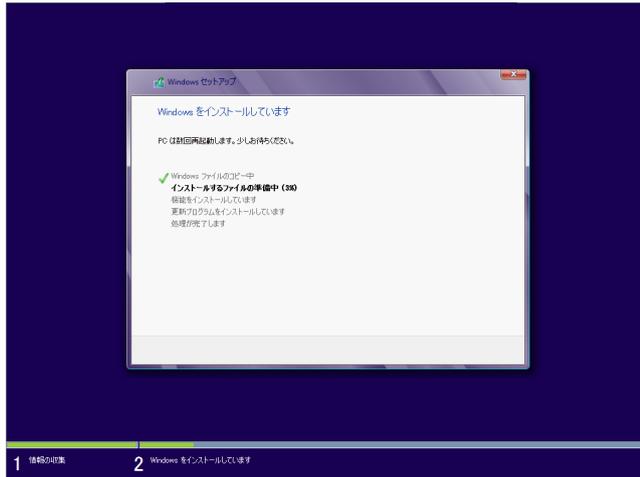
12. 手順 11 で作成したパーティションを選択し、[フォーマット] をクリックします。

13. 作成したパーティションを選択し、[次へ] をクリックします。



画面に表示されるパーティションの数は、ご使用の環境によって異なります。

次のメッセージが表示され、Windows のインストールが始まります。



Windows 8 のインストール後、自動で再起動します。
再起動後、引き続き Windows のセットアップを開始します。

14. パーソナル設定を行い、[次へ] をクリックします。

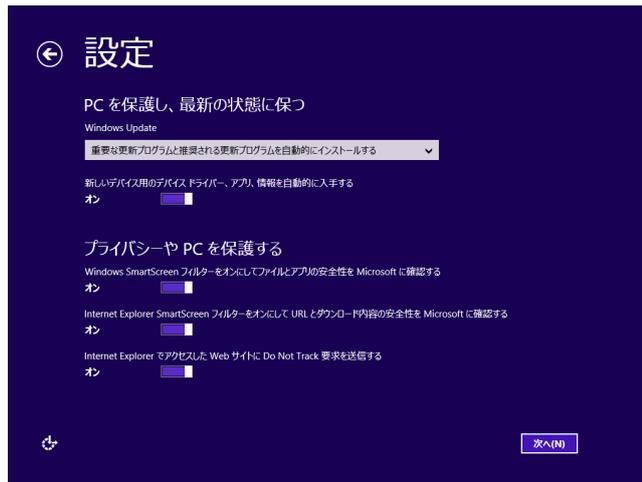


15. 設定内容を確認します。
ここでは、[簡単設定を使う] をクリックします。



【 [簡単設定] 画面】

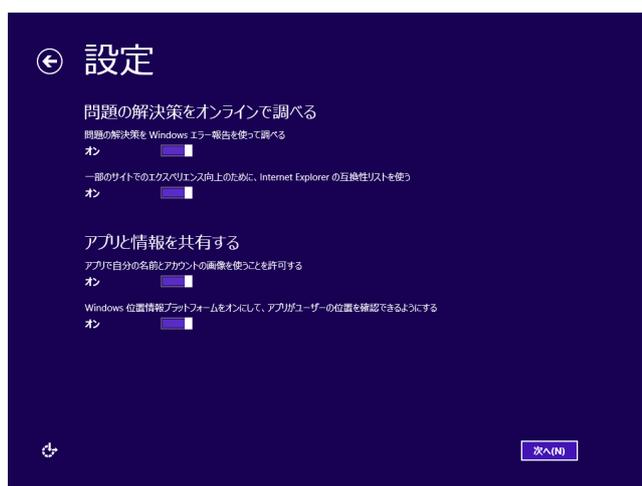
【自分で設定する】のときは、画面の項目を確認し設定してください。



【 [自分で設定する] 画面 (1/3)】



【 [自分で設定する] 画面 (2/3)】



【 [自分で設定する] 画面 (3/3)】

16. ユーザー名とパスワードを入力し [完了] をクリックします。

← PC へのサインイン

パスワードを作る場合は、覚えやすく、他人からは推測されにくいものにしましょう。

ユーザー名(U) 例: Taro

パスワード(P) A

パスワードの確認入力(R)

パスワードのヒント(H)

完了(F)

ネットワークに接続しているときは、次の画面が表示されます。
内容を確認し、設定してください。

← PC へのサインイン

サインインするには 2 つの方法があります:

Microsoft アカウント

メール アドレスでサインインすると、次のメリットがあります:

- Windows ストアからアプリをダウンロードできます。
- Microsoft アプリのオンライン コンテントを自動的に入手します。
- ブラウザのお気に入りと歴史、言語、サービスのサインイン情報など、大切な設定をオンラインで同期して、複数の PC で同じ使い心地を実現できます (同期する情報は Microsoft に送られますが、この設定は後で変更できます)。

ローカル アカウント

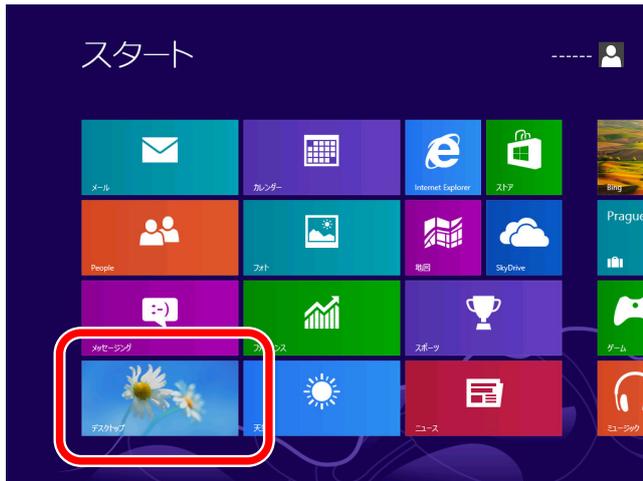
ローカル アカウントでサインインすると、次のようになります:

- お使いの PC でこのユーザー名とアカウントを作る必要がありません。
- アプリをダウンロードするには Microsoft アカウントが必要ですが、アカウントは後で設定できます。
- 複数の PC をお使いの場合、設定は同期されません。

Microsoft アカウント(M) ローカル アカウント(L)

Windows 8 が起動します。

17. スタート画面にある [デスクトップ] をクリックします。



デスクトップ画面が表示されます。



18. 本書の「1章(3.4 Starter Pack の適用)」を参照し Starter Pack を適用します。
19. 本書の「1章(3.5 デバイスドライバのセットアップ)」を参照し、ドライバのインストールや詳細設定をします。
20. 必要に応じ、オプションに添付の説明書を参照してオプションのドライバをインストールします。
21. 本書の「1章(3.7 ライセンス認証の手続き)」を参照し、ライセンス認証済みかを確認します。
22. 本書の「1章(4. 障害処理のためのセットアップ)」を参照してセットアップします。

以上で、OS標準のインストーラを使ったセットアップは完了です。

3.4 Starter Pack の適用

Starter Pack には本製品向けにカスタマイズされたドライバなどが含まれています。システム運用前に、Starter Pack を適用してください。



次の場合も必ず「Starter Pack」を適用してください。

- システム構成を変更した場合
(内蔵オプションの機器の取り付け/取り外しをした場合。システム構成を変更した後、再起動を促すダイアログボックスが表示される場合は[いいえ]をクリックし、Starter Pack を適用してください。)
- 修復プロセスを使用してシステムを修復した場合
- バックアップツールを使用してシステムをリストアした場合



本機能を使ってセットアップすると、Scalable Networking Pack(SNP)機能は「無効」に設定されます。

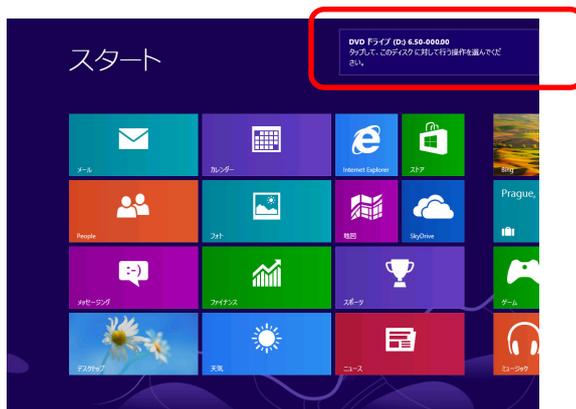
SNP 機能を有効にするときは、下記サイトを確認した上で設定してください。

<http://support.express.nec.co.jp/care/techinfo/snp.html>

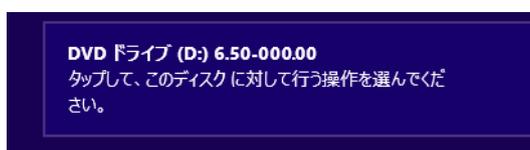


プリインストールモデルは、Starter Pack は適用済みのため構成変更がない場合、再度適用する必要はありません。

1. 管理者権限のあるアカウントで、本機にインストール済みのWindowsへサインインします。
「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブにセットします。
2. スタート画面の右上にDVDドライブの操作メニューが表示されます。



以下をクリックします。



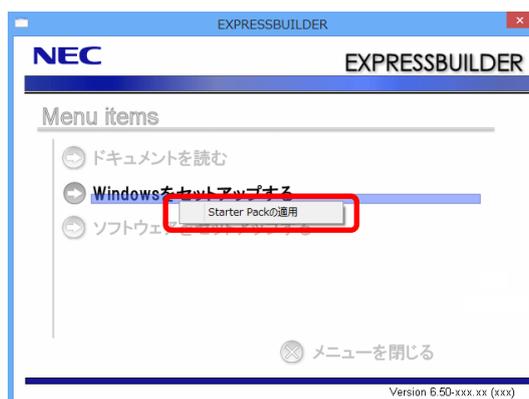
3. スタート画面の右上にDVDドライブの操作メニューが表示されたら、[dispatcher.exeの実行]をクリックします。



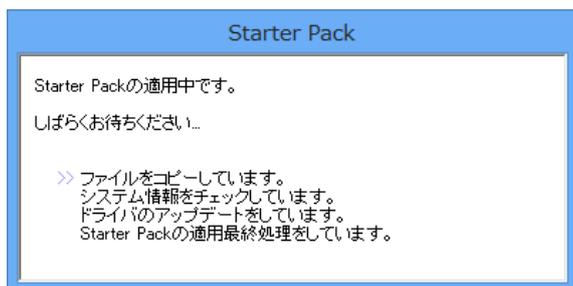
以下の画面が表示されたら、[はい]をクリックします。



4. 以下のメニューから、[Windows をセットアップする] - [Starter Packの適用]をクリックします。



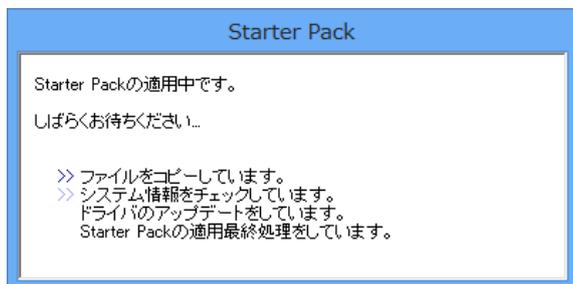
Starter Pack適用中は次の進捗メッセージが表示されます。
ファイルのコピーが完了するまで、しばらくお待ちください(1~3分程度)。



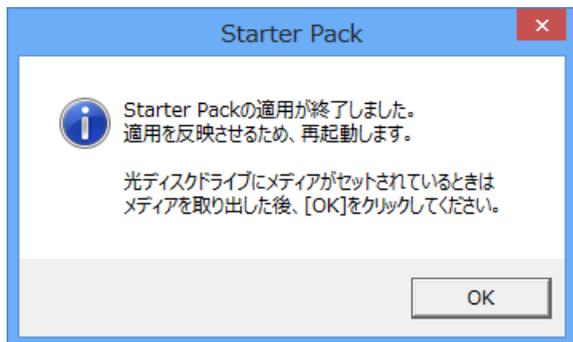
5. 次の画面ではメッセージの内容を確認し、[OK]をクリックします。
「Starter Pack」が適用されます。



Starter Pack適用中は次の進捗メッセージが表示されます。
途中画面がちらついたりするときがありますが、適用が完了するまで、しばらくお待ちください。



6. 次のメッセージが表示されたら、Starter Packの適用は完了です。



Starter PackをDVDなどにコピーして使用した場合は、メッセージにしたがって、メディアを取り出してください。

7. [OK]をクリックして再起動します。

以上で、Starter Packの適用は完了です。

3.5 デバイスドライバのセットアップ

標準装備の各種ドライバのインストールとセットアップを行います。

ここで記載されていないドライバのインストールやセットアップについては、ドライバに添付の説明書を参照してください。

3.5.1 LAN ドライバ

プリインストールモデルは、購入時に LAN ドライバがインストール済みです。

再インストールの場合は、Starter Pack を適用してインストールしてください。

標準装備のネットワークアダプタ名は次のようになります。

- ・ Intel(R) 82579LM Gigabit Network Connection



重要

- ネットワークアダプタのチーミング機能はサポートしていません。
- Wake On LAN は標準装備のネットワークアダプタのみサポートです。また、高速スタートアップが有効の場合、シャットダウン状態からの Wake On LAN はサポートしていません。(高速スタートアップの項目がないときは、無効になっています。)



チェック

- LAN ドライバに関する操作は、必ず本機に接続されたコンソールから管理者 (Administrator など) 権限でサインインした状態で実施してください。OS のリモートデスクトップ機能、または、その他の遠隔操作ツールを使用しての作業はサポートしていません。
- IP アドレスを設定する際、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]のチェックボックスが外れている場合、チェックを付けてから IP アドレスの設定をしてください。

(1) LAN ドライバの設定

以下の手順を参照し、転送速度とデュプレックスモードを設定してください。

1. [デバイスマネージャー]を起動します。
2. [ネットワークアダプター]を展開し、設定するネットワークアダプタをダブルクリックしプロパティを表示します。
3. [詳細設定]タブを選択し、[速度とデュプレックス]をスイッチングハブの設定値と同じ値に設定します。
4. [OK]をクリックし、システムを再起動します。

以上で完了です。

またネットワークの負荷状態により、標準装備のネットワークアダプタ(82579LM)の送受信処理が停止する場合があります。以下のパラメータ調整によって回避できます。

1. [デバイスマネージャ]を起動します。
2. [ネットワークアダプター]を展開し、[Intel(R) 82579LM]をダブルクリックしプロパティを表示します。
3. [詳細設定]タブを選択し、[フロー制御]を選択します。
4. 値を[オフ](推奨値)、[受信 有効]、[送信 有効]のいずれかに設定します。
5. [OK]をクリックし、システムを再起動します。

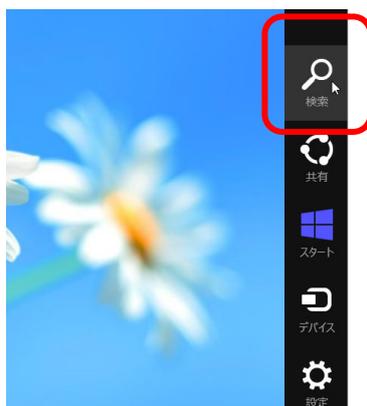
以上で完了です。

3.5.2 AMT ドライバのインストール

Starter Pack 適用時に AMT ドライバのインストールプログラムに含まれる Recovery Agent は自動でインストールされません。そのため、お客様の使用する環境において必要な場合には、次の手順を参照し EXPRESSBUILDER 内にある Recovery Agent をインストールしてください。

1. 本機にインストール済みの Windows へ管理者権限のあるアカウントで、サインインします。EXPRESSBUILDER を、光ディスクドライブにセットする。
2. チャームから [検索] をクリックします。
(または、画面の左下隅を右クリックして表示されるメニューより、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。)

【[検索]の画面】



【[ファイル名を指定して実行]選択画面】

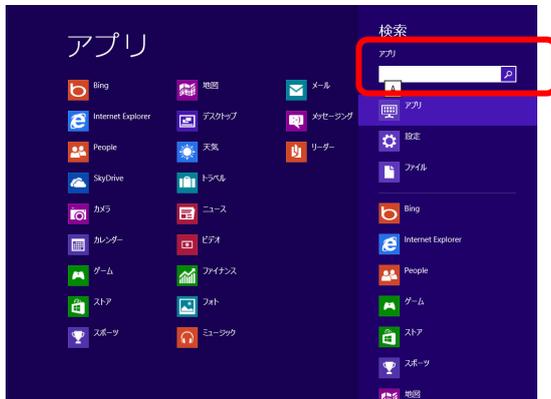


3. 以下を入力し、<Enter>キーを押します。

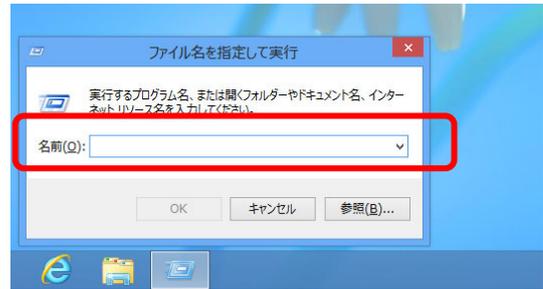
● 64 ビット版

<ドライブレター>: **%winnt%\win8x64%amt_a\Firmware Recovery Agent%Updateagent-setup.msi**

【[検索]の画面】



【[ファイル名を指定して実行]の画面】



例えば D ドライブの temp フォルダに Starter Pack があるときは、
「D:\018%winnt%\win8x64%amt_a\Firmware Recovery Agent
%Updateagent-setup.msi」と入力し、<Enter>キーを押します。

4. プログラム名、確認済みの発行元を確認し、[はい] をクリックします。



5. 次の画面が表示されたら、[次へ] をクリックします。



6. ライセンス条項の内容を確認し、同意する場合は [使用許諾契約書に同意します] にチェックを入れ [次へ] をクリックします。



7. 次の画面が表示されたら、[インストール] をクリックします。デスクトップ上に Firmware Recovery Agent のショートカットが不要な場合はチェックボックスのチェックを外してから [インストール] をクリックしてください。



8. インストールが実行されます。



9. [完了]をクリックして、セットアッププログラムを終了します。



以上で、Firmware Recovery Agent のインストールは完了です。

3.5.3 グラフィックスアクセラレータドライバ

グラフィックスアクセラレータドライバは、購入時にインストール済みです。

Windows システムの修復や再セットアップのとき、オンボードのグラフィックスアクセラレータを使用する場合は、EXPRESSBUILDER から Starter Pack を適用しドライバをインストールしてください。

オプションのグラフィックスアクセラレータボードを使用する場合は、本機またはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明書とメディア(CD-ROM)を使用してドライバをインストールしてください。

MultiView(オンボードグラフィックスとオプショングラフィックスでのマルチモニタ)を使う場合は、以下の手順にしたがって設定してください。

1. オプションのグラフィックスドライバをインストールします。
2. BIOSセットアップユーティリティを起動し、次の項目を「Enabled」に変更します。
[Advanced] - [PCI Configuration] - [PCI Device Controller and Option ROM Settings] -
[Video Controller] - [Multi Video Controller]
3. Starter Packを適用します。
4. 再起動し、「画面のプロパティ」からMultiViewを設定してください。



MultiView を解除する場合は、BIOS の [Multi Video Controller]を「Disabled」に設定してください。

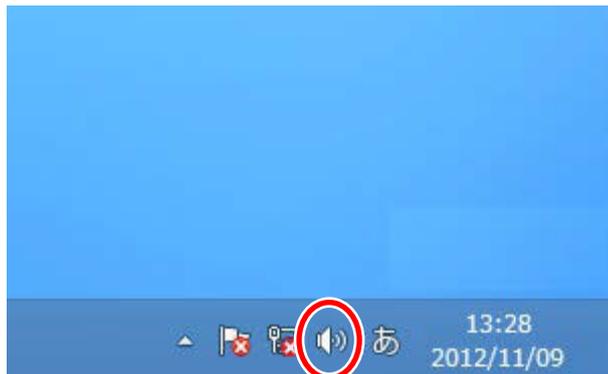
3.5.4 サウンドドライバ

プリインストールモデルの場合は、購入時にドライバがインストール済みです。

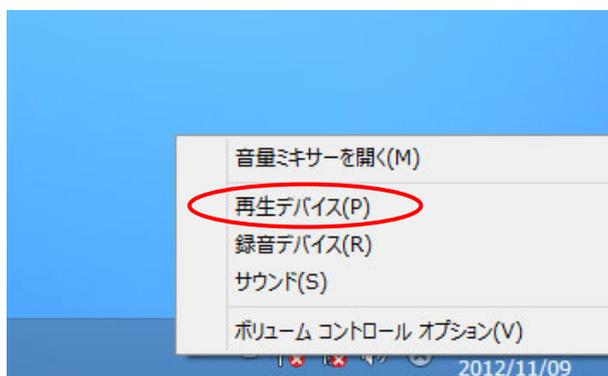
再インストールの場合は、Starter Pack を適用しドライバをインストールしてください。

ディスプレイとオンボードグラフィックスを DisplayPort で直接接続する場合、以下の手順で設定を変更してください。

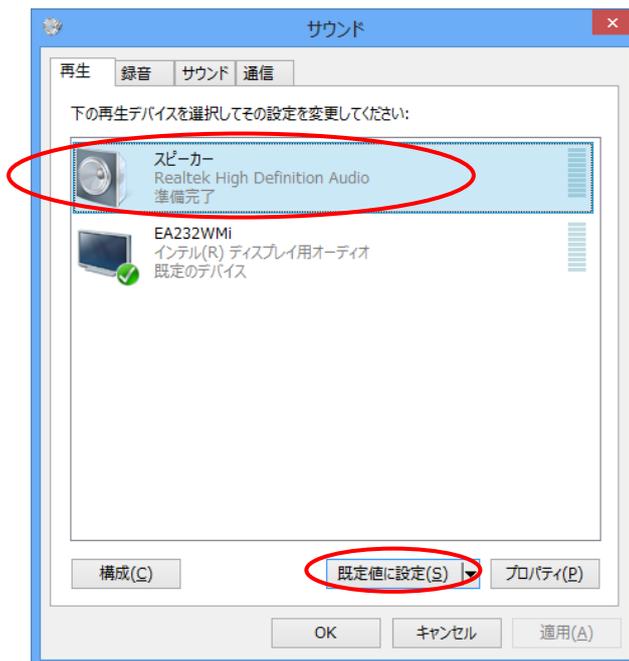
1. 画面右下赤丸部のサウンドのアイコンを右クリックします。



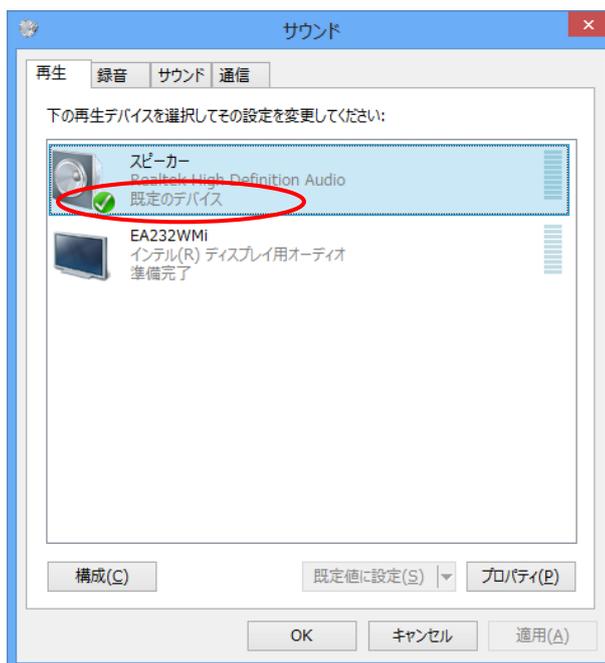
2. [再生デバイス(P)]上でクリックします。



3. 以下のような画面が開きます。[Intel Display Audio]が既定のデバイスとなっている場合、[Realtek High Definition Audio]を選択し、[既定値に設定(S)]をクリックします。



4. [Realtek High Definition Audio]が既定のデバイスとなっていることを確認し、[OK]をクリックします。



3.6 各種バンドルソフトウェアのインストール

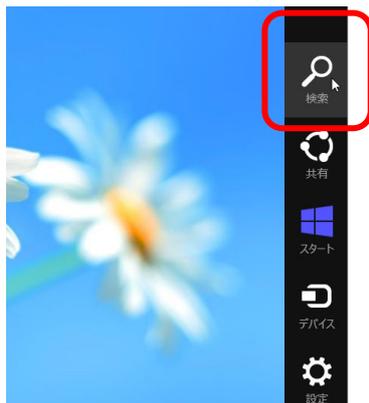
EXPRESSBUILDER には、「ESMPRO/ServerAgent」、「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。[スタート]メニューの[プログラム]やコントロールパネルにインストールしたユーティリティのフォルダがあることを確認してください。再インストールの場合は、本書の「2章 バンドルソフトウェアのインストール」を参照して個別にインストールしてください。

3.7 ライセンス認証の手続き

Windows 8 を使用するには、ライセンス認証の手続きが必要です。必ず認証の手続きを行ってください。次の手順でライセンス認証済みかを確認します。

1. チャームから [検索] をクリックします。
(または、画面の左下隅を右クリックして表示されるメニューより、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。)

【[検索] の画面】

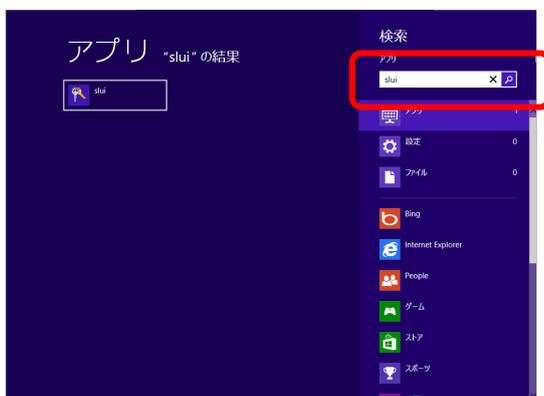


【[ファイル名を指定して実行] 選択画面】

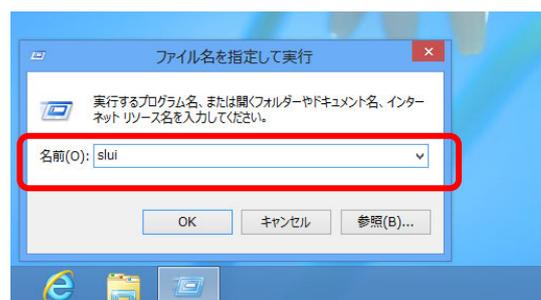


2. 検索で「slui」と入力して<Enter>キーを押します。

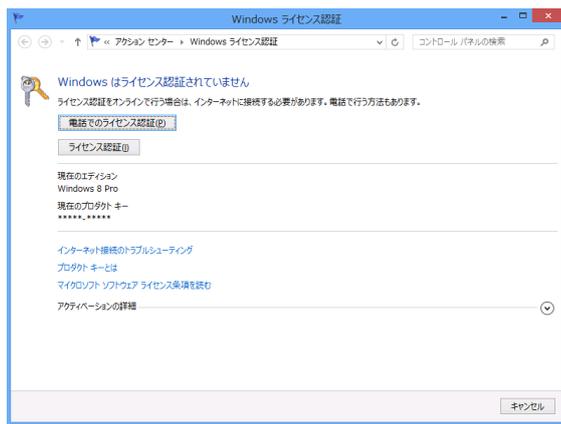
【[検索] の画面】



【[ファイル名を指定して実行] の画面】



3. 次の内容を確認し、ライセンス認証の手続きを行います。



ライセンス認証済みのときは、手続きの必要はありません。

以上で、ライセンス認証の手続きは完了です。

3.8 サービスパックの適用

サービスパックを使用するときは、下記のサイトより詳細情報をご確認ください。

[ワークステーションサポート情報]

<http://support.express.nec.co.jp/workstation/>

3.9 論理ドライブが複数存在するときのセットアップ

セットアップをはじめる前に、万一の場合に備えてデータをバックアップしてください。

(1) セットアップ手順

1. 本書の「1章(3.3 OS 標準のインストーラを使ったセットアップ)」を参照し、セットアップします。
2. 次のメッセージにしたがい、OS インストール先のパーティションを選択します。

Windows のインストール場所を選択してください。

このときに表示されるディスクの順番および番号は、本機のスロット位置と一致しない場合があります。インストール先は、表示される**ハードディスクドライブの容量やパーティションのサイズで判別してください**。

ハードディスクドライブの選択を誤った場合、意図せず既存のデータを削除する可能性があります。



- 詳細については次の Microsoft 社の Web サイトを参照してください。
<http://support.microsoft.com/kb/937251/ja>
- システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字は、セットアップ完了後は修正できません。この画面で正しいドライブ文字が割り当てられていることを確認してからセットアップを続行してください。

3. 本書の「1章(3.3 OS 標準のインストーラを使ったセットアップ)」を参照し、本書の手順にしたがって OS 標準のインストーラを使ったセットアップを続けます。

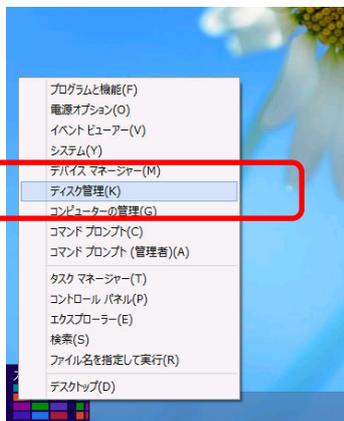


セットアップ完了後、セットアップ前とドライブ文字が異なる場合があります。ドライブ文字の修正が必要な場合は次の「(2) ドライブ文字の修正手順」にしたがってドライブ文字を変更してください。

(2) ドライブ文字の修正手順

Windows インストール後、ドライブ文字を変更するときは、以下の手順にしたがってください。ただし、この手順では、システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字は変更できません。これらを変更したいときは、Windows を再インストールしてください。

1. 画面の左下隅を右クリックし [ディスク管理] をクリックします。



2. ディスクの管理 画面で、ドライブ文字を変更したいボリュームを選択して右クリックし、[ドライブ文字とパスの変更]を選択します。
3. [変更]をクリックします。
4. [次のドライブ文字を割り当てる]をクリックし、割り当てたいドライブ文字を選択します。
5. [OK]をクリックします。
6. 以下の確認メッセージでは、[はい]をクリックします。

ドライブ文字に依存する一部のプログラムが正しく動作しなくなる場合があります。
続行しますか？

7. [ディスクの管理]を終了します。

以上で完了です。

4. 障害処理のためのセットアップ

運用上問題などが起きたとき、より早く、確実に復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしてください。

4.1 メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

メモリダンプ(デバッグ情報) を採取するための設定です。



- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがあります。この場合、そのまま起動してください。リセットや再起動すると、メモリダンプを正しく保存できないことがあります。

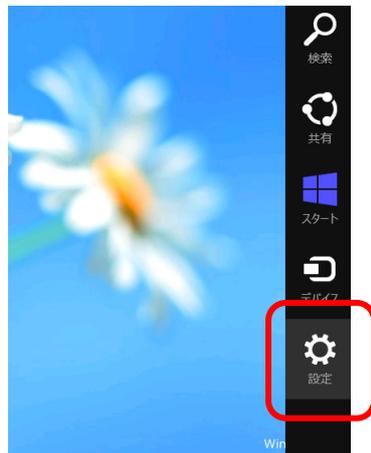
4.1.1 Windows 8

次の手順にしたがって設定します。

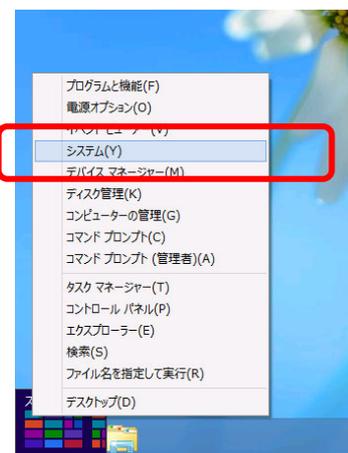
1. チャームから「設定」をクリックします。

(または、画面の左下隅を右クリックして表示されるメニューより、「システム」をクリックすると手順5の画面が表示されます。)

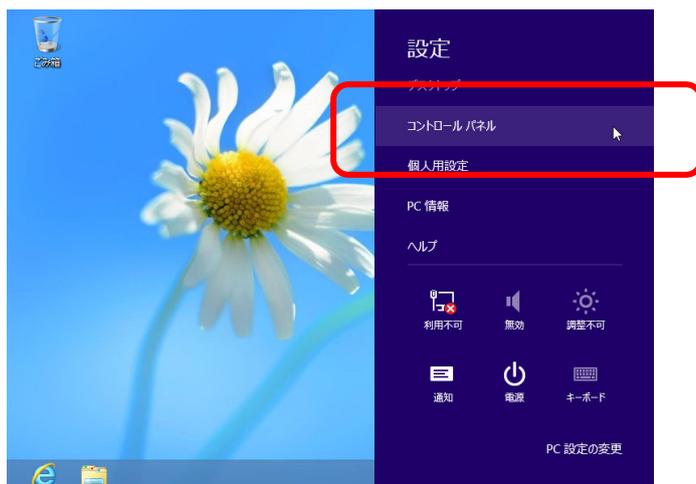
【「設定」の画面】



【「システム」選択画面】



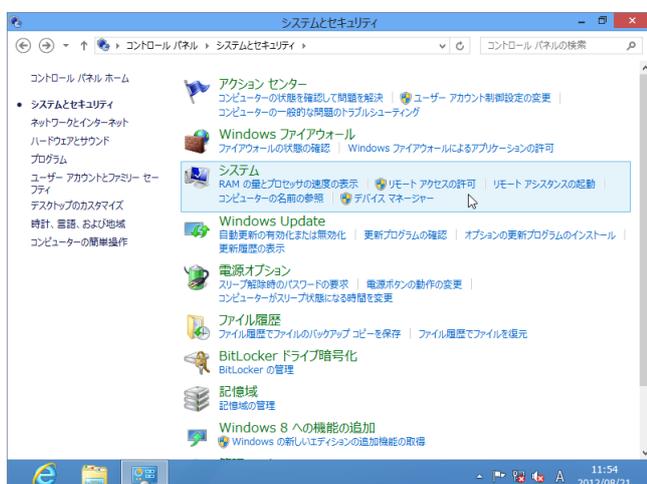
2. 設定の [コントロールパネル] をクリックします。



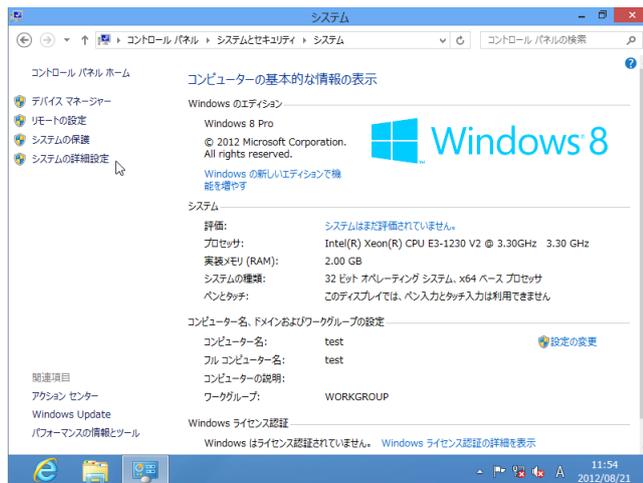
3. コントロールパネルから [システムとセキュリティ] をクリックします。



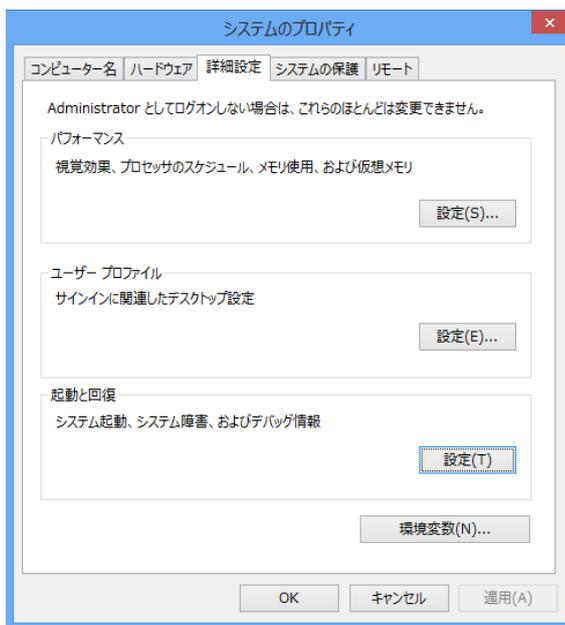
4. システムとセキュリティから [システム] をクリックします。



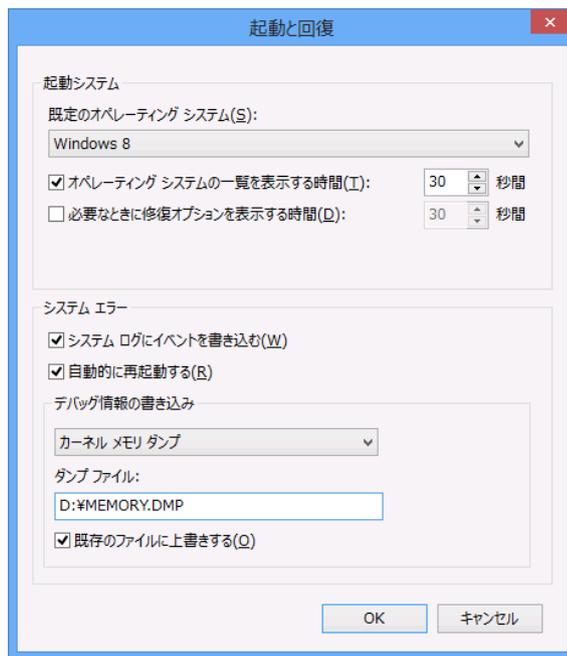
5. システムから [システムの詳細設定] をクリックします。
システムのプロパティが表示されます。



6. [起動と回復]の[設定]をクリックします。



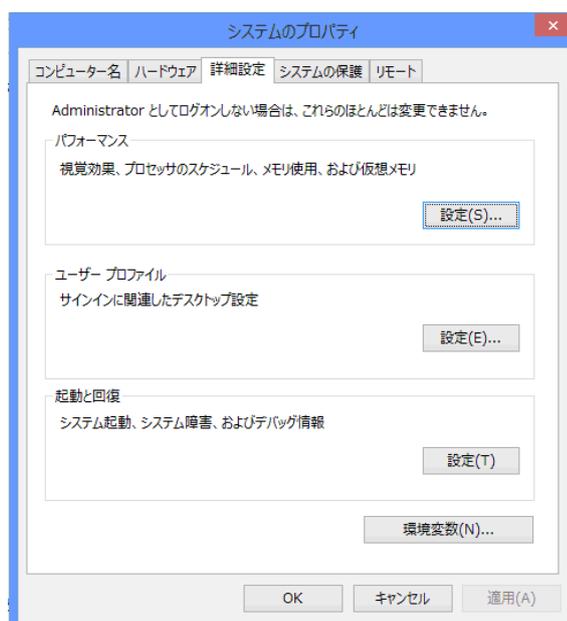
7. ダンプファイルのテキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力し、[OK]をクリックします。
 <Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>



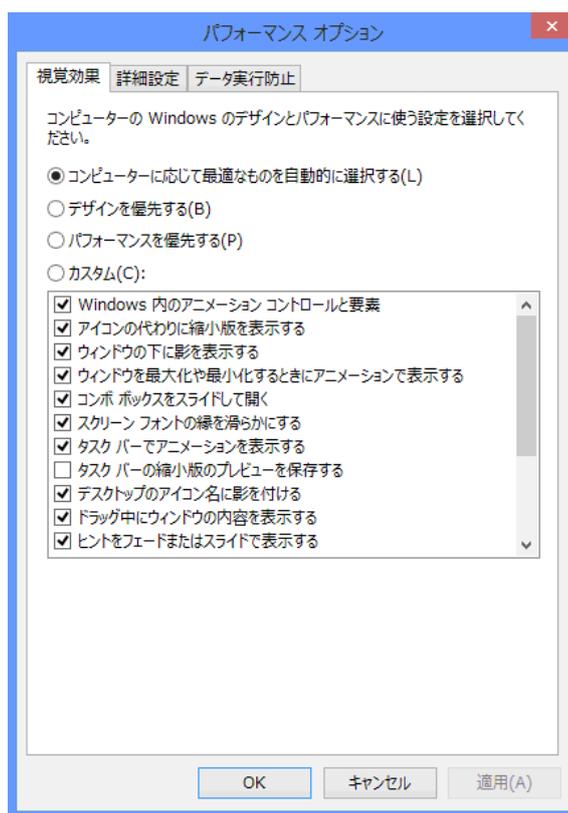
ダンプファイルについては、以下について注意のうえ設定してください。

- 「デバッグ情報の書き込み」は[カーネルメモリダンプ]を指定することを推奨します。
- 搭載しているメモリサイズ + 400MB 以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- ワークグループ環境の場合は、25 GB 以上の空き容量があるドライブを指定してください。
- メモリを増設すると、採取されるデバッグ情報 (メモリダンプ)のサイズが変わります。
増設時は、ダンプファイルの書き込み先の空き容量も確認してください。

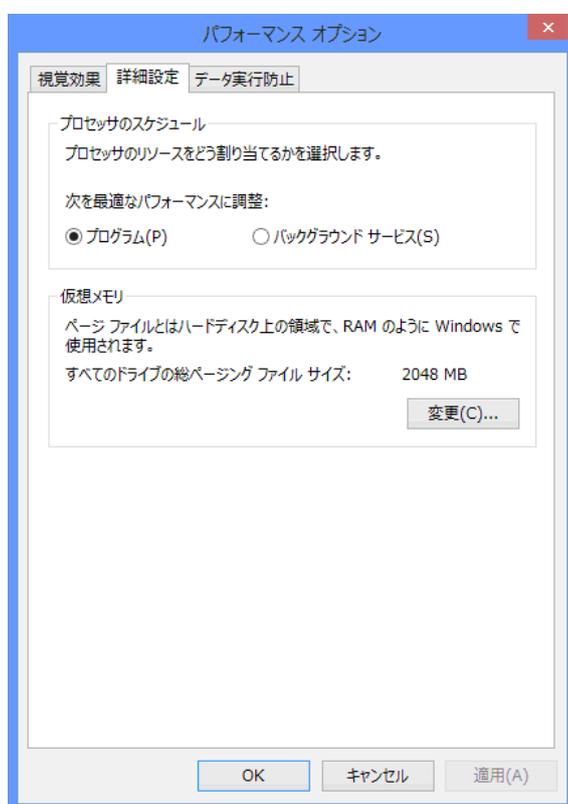
8. [パフォーマンス]の[設定]をクリックします。
 [パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。



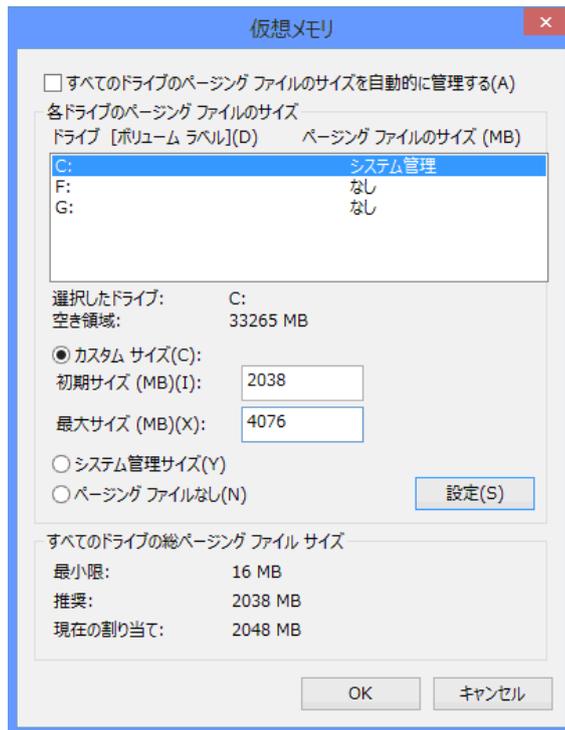
9. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックします。



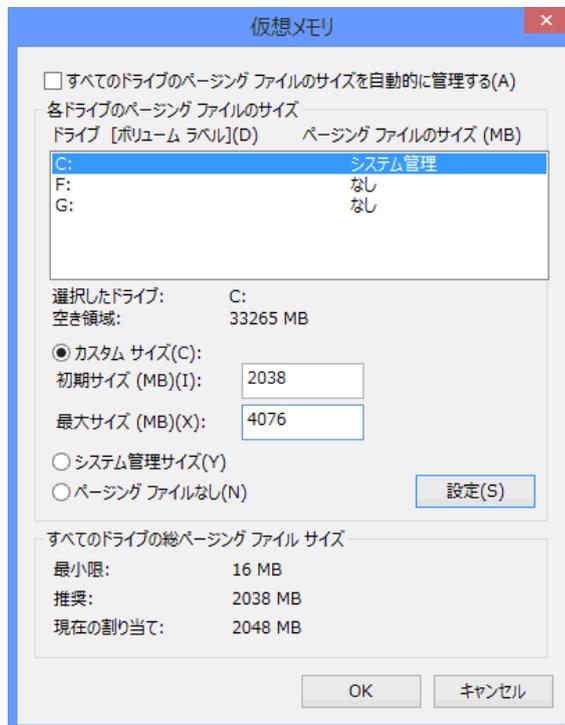
10. [仮想メモリ]の[変更]をクリックします。



11. [すべてのドライブのページングファイルのサイズを自動的に管理する]のチェックを外し、
[カスタムサイズ]にチェックをします。



12. [各ドライブのページングファイルのサイズ]の[初期サイズ]を推奨値以上に、[最大サイズ]を
[初期サイズ]以上に変更し、[設定]をクリックします。



ページングファイルについては、以下について注意のうえ設定してください。

- ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズ(搭載物理メモリサイズ + 400MB 以上)を持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズ(搭載物理メモリサイズ × 1.5 以上を推奨します)を設定してください。
- 「推奨値」については、本書の「1 章(3.1 セットアップの前の確認事項)」の「システムパーティションのサイズ」の項を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。

13. [OK]をクリックします。

変更によっては Windows を再起動するようメッセージが表示されます。

メッセージにしたがって再起動してください。

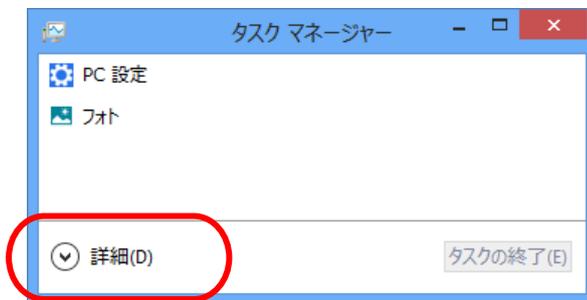
以上で完了です。

4.2 ユーザーモードプロセスダンプの取得方法

4.2.1 Windows 8 の場合

ユーザーモードプロセスダンプは、アプリケーションエラー発生時の情報を記録したファイルです。アプリケーションエラーが発生したときは、エラーのポップアップを終了させずに、以下の方法にてユーザーモードプロセスダンプを取得してください。

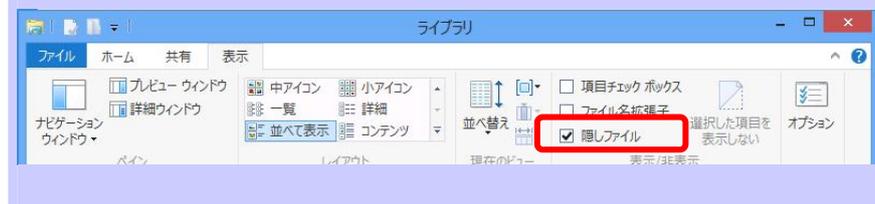
1. 画面の左下隅を右クリックして[タスクマネージャー]をクリックするか、<Ctrl> + <Shift> + <Esc> キーを押して[タスクマネージャー]を起動します。
2. [詳細]をクリックします。



3. [プロセス]タブをクリックします。
4. ダンプを取得するプロセス名を右クリックし、[ダンプファイルの作成]をクリックします。
5. 次のフォルダにダンプファイルが作成されます。
C:¥Users¥(ユーザー名)¥AppData¥Local¥Temp



上記のフォルダは隠し属性となっている場合があります。フォルダが表示されない場合は、エクスプローラの[表示]から[隠しファイル]をチェックしてください。



ユーザーモードプロセスダンプが作成されたら、上記5のフォルダより取得してください。

以上で完了です。

4.3 リカバリーメディアの作成

プリインストールモデルは、購入時にリカバリーメディアのイメージファイル(recovery.iso)が次のフォルダに格納されています。

C:\NECRecovery

リカバリーメディアを使うことで、故障などでハードディスクドライブを交換したときにシステムを購入時の状態に戻すことができます。

ライティングソフトを使って、あらかじめリカバリーメディアを作成することを推奨します。

バンドルソフトウェアのインストール

本機のバンドルソフトウェアと、そのインストールについて簡単に説明します。

1. 本機用バンドルソフトウェア

本機にインストールするバンドルソフトウェアについて説明しています。

2. 管理PC用バンドルソフトウェア

本機を監視・管理する「管理PC」にインストールするバンドルソフトウェアについて説明しています。

1. 本機用バンドルソフトウェア

本機にインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。詳細は、各ソフトウェアのドキュメントを参照してください。

1.1 ESMPRO/ServerAgent (Windows 版)

ESMPRO/ServerAgent (Windows 版)は本機を監視するソフトウェアです。

ESMPRO/ServerAgent (Windows 版)を個別にインストールするときは、EXPRESSBUILDER 内の「ESMPRO/ServerAgent インストールガイド (Windows 編)」を参照してください。

1.2 ExpressUpdate Agent

本機のファームウェア、ソフトウェアなどのバージョン管理および更新ができます。

ExpressUpdate を使うと、ESMPRO/ServerManager によって自動的にダウンロードした更新パッケージを簡単に適用できます。

ExpressUpdate Agent のインストールについては、EXPRESSBUILDER 内の「ExpressUpdate Agent インストールガイド」を参照してください。



ExpressUpdate に未対応のファームウェアまたはソフトウェアの更新パッケージが提供されることがあります。

これらの更新パッケージの適用に関しては以下のページに掲載しています。

NEC コーポレートサイト(<http://www.nec.co.jp/>)

[サポート・ダウンロード] - [ワークステーション]

1.3 エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)

エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)は、本機が故障したときの情報(または予防保守情報)を、電子メール、モデム経由で保守センターに通報して、故障を事前に防いだり、迅速に保守したりできます。本サービスを使用するには、事前のご契約と ESMPRO/ServerAgent のインストールが必要です。

エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)を個別にインストールするときは、EXPRESSBUILDER 内の「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS) インストールガイド」を参照してください。

2. 管理 PC 用バンドルソフトウェア

本機をネットワークから管理する「管理 PC」を構築するために必要なバンドルソフトウェアについて説明します。

2.1 ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerManager は、本機のハードウェアをリモートから管理・監視できます。

これらの機能を使うには、本機へ ESMPRO/ServerAgent など、本機用バンドルソフトウェアをインストールしてください。

ESMPRO/ServerManager の動作環境、管理 PC へのインストールについては、EXPRESSBUILDER 内の「ESMPRO/ServerManager インストレーションガイド」を参照してください。

2.2 エクスプレス通報サービス(MG)

エクスプレス通報サービス(MG)は、本機が故障したときの情報(または予防保守情報)を、電子メール、モデム経由で保守センターに通報して、故障を事前に防いだり、迅速に保守したりできます。

エクスプレス通報サービスは通常、ESMPRO/ServerAgent と連携して動作するため、本サービスを使用するためには ESMPRO/ServerAgent が必要になります。しかし、ESMPRO/ServerAgent を導入できない機種の場合は、エクスプレス通報サービス(MG)を、ESMPRO/ServerManager 側にインストールします。

エクスプレス通報サービス(MG)の動作環境、管理 PC へのインストールについては、EXPRESSBUILDER 内の「エクスプレス通報サービス(MG) インストレーションガイド」を参照してください。

索引

A

Administrator … 37

E

ESMPRO/ServerAgent … 44, 58

ESMPRO/ServerManager … 44,
58, 59

EXPRESSBUILDER … 10, 11, 38,
41, 44, 58, 59

EXPRESSBUILDER DVD … 25,
34

ExpressUpdate Agent … 58

L

LAN ドライバ … 37

N

NEC コーポレートサイト … 58

R

RAID コントローラ … 11

RAID システム … 11

S

Starter Pack … 33, 34, 37, 38, 39,
41, 42

W

Wake On LAN … 37

あ

インストールメディア … 25

エクスプレス通報サービス(MG) …
59

エクスプレス通報サービス/エクスプレ
ス通報サービス(HTTPS) … 58

か

管理 PC … 59

グラフィックスアクセラレータドラ
イバ … 41

グラフィックスアクセラレータボー
ド … 14, 41

さ

サービスパック … 10, 13, 18, 45

サウンドドライバ … 42

スイッチングハブ … 37

た

大容量記憶装置コントローラ … 11

デバッグ情報 … 15, 17, 48

ドライブ文字 … 15, 46, 47

な

ネットワークアダプタ … 37

は

パーティション … 20, 28, 29

パーティション構成 … 20

パーティションサイズ … 15, 17

ハードディスクドライブ … 14, 15,
18, 20, 46, 56

バンドルソフトウェア … 44, 58,
59

プリインストール … 20

ま

メモリダンプ … 15, 16, 48

や

ユーザーモードプロセスダンプ …
55

ら

ライセンス認証 … 44

リムーバブルメディア … 21

論理ドライブ … 14, 46

NEC Express ワークステーション

Express5800/51Eb, Y51Eb
インストレーションガイド(Windows 編)

2012 年 12 月 初版
日 本 電 気 株 式 会 社
東京都港区芝五丁目 7 番 1 号
TEL (03) 3454-1111 (大代表)

落丁、乱丁はお取り替えいたします

©NEC Corporation 2012

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

<本装置の利用目的について>

本製品は、高速処理が可能であるため、高性能コンピュータの平和的利用に関する日本政府の指導対象になっております。

ご使用に際しましては、下記の点につきご注意ください。よろしくお願いいたします。

1. 本製品は不法侵入、盗難等の危険がない場所に設置してください。
2. パスワード等により適切なアクセス管理をお願いいたします。
3. 大量破壊兵器およびミサイルの開発、ならびに製造等に関わる不正なアクセスが行われるおそれがある場合には、事前に弊社相談窓口までご連絡ください。
4. 不正使用が発覚した場合には、速やかに弊社相談窓口までご連絡ください。

弊社相談窓口 ファーストコンタクトセンター
電話番号 03-3455-5800

注 意

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

高調波適合品

この装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2適合品です。

：JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性—第3-2部：限度値—高調波電流発生限度値（1相当たりの入力電流が20A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

回線への接続について

本体を公衆回線や専用線に接続する場合は、本体に直接接続せず、技術基準に適合し認定されたボードまたはモデム等の通信端末機器を介して使用してください。

電源の瞬時電圧低下対策について

この装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置（UPS）等を使用されることをお勧めします。

レーザー安全基準について

この装置にオプションで搭載される光学ドライブは、レーザーに関する安全基準（JIS C-6802、IEC 60825-1）クラス1に適合しています。

日本国外でのご使用について

この装置は、日本国内での使用を前提としているため、海外各国での安全規格等の適用を受けておりません。したがって、この装置を輸出した場合に当該国での輸入通関および使用に対し罰金、事故による補償等の問題が発生することがあっても、弊社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。